

解題・翻刻

## 高橋徳兵衛の軍事郵便について 小田嶋恭二

### 1 高橋徳兵衛の略歴

高橋徳兵衛は明治三十八年（一九〇五）二月一日岩手県和賀郡藤根村長沼（現在の北上市和賀町長沼）に農家の長男として生まれる。

兄弟は弟のみであったが、母が幼い時に亡くなり父が後妻をもらい、その間にできた子供が三人あり、第二人妹三人の計五人の長男であった。

徳兵衛が二回目の兵役に従事する昭和二年には、すでに三三歳となっており軍人としては老兵の域であった。家族は両親、妻、子供、兄弟、祖父含め十人前後で一家の重要な働き手であった。その頃、約三町五反の田と畑五反を耕作する農家だった。

徳兵衛の学歴についてはよくわからないが、昭和一〇年九月一日開校した藤根村立青年学校の教練指導員をしている。この時高橋峯次郎はこの青年学校の教員であった。

徳兵衛は、大正一四年九月の徴兵検査で甲種合格となるが入営が翌一五年一月まで延期となる。弘前歩兵第三一聯隊第九中隊に入隊したのは大正一五年（一九二五）一月十日である。昭和二年一月除隊している。その後昭和三年五月一二、一三日に弘前で行われた在郷軍人会総会及び大演習会に出場、同九月に七戸（青森県）での演習に参加、十月六日から行われた大演習（花巻、日詰、盛岡）に召集されている。この時歩兵上等兵から歩兵伍長へ昇進している。

二回目の入隊は、昭和一二年七月で前回と同じ三一聯隊第九中隊である。日華事変勃発後の昭和二年八月から中村部隊川原田隊に配属にな

り、九月二〇日韓国の釜山に上陸し、鴨緑江を渡り満州、山海関、順徳、山西省大行山脈を越え、新郷、臨汾、東冷口、臨口を転戦した。昭和一三年三月軍曹に、一一年四月には曹長に昇進し、同年一月一八日弘前に無事帰還し除隊となる。

除隊後は戦前戦後をとおして農業を営む。その間昭和一五年二月から入営兵の教育指導、同一六年在郷軍人会藤根分会会長、藤根村の助役、和賀町の町会議員、農業委員、監査委員などを歴任した。昭和五八年一二月病死する。生前は家族に戦争の話はしなかった。妻が手紙を出していたので戦地から手紙は来ていたが、晩年に本人が焼却処分してしまった。

### 2 高橋徳兵衛の軍事郵便

今回翻刻した徳兵衛の軍事郵便は全部で五七通（うち本文なし三通含む）。これを編年で整理したのが別紙一覧表である。編年に当たっては、日付と消印に依ったが、ない場合は内容から推定した。発信時の所属は郵便に記載のとおりである。形式ははがきと封書に分類し、軍事郵便には◎を付した。内容欄には、参考のため適宜要約と抜粋文言を記した。なお、同郷の出征兵士の名前については『真友』を参考にした。

大正一五年一月から昭和三年九月まで前期のはがきには、弘前歩兵第三一聯隊第九中隊に入隊し、入営の挨拶、日々の教練のこと、試験で頭を悩めていること、郷里の農事の心配などが記されているが徳兵衛の心情はあまり記されていない。

昭和一二年七月から一七年六月まで後期のはがき・手紙には、初年兵気分に入隊したこと、同郷の戦友の近況報告に始まり、北支への派遣、転戦、同士の戦死、戦地の村の様子、弘前へ帰還、そして村会議員候補者への応援依頼となっている。

特に北支からの便りには、北支の戦線は容易でないこと、陣中での一番の楽しみは故郷からの手紙と慰問品であること、村の様子を知るには

「真友」が一番、家のことはカカ（妻）の手紙、青年学校の生徒から励ましの手紙をもらったこと、軍曹に昇進するよう高峯に要求されたことなどが記されている。また支那人は食物が絶え木の葉や青麦の穂をもぎ取って食べていること、兵隊は気が張っているから罪のない女子供も殺して前進することなど戦争の悲惨さを記した内容が多い。どの軍事郵便にも「銃後の家族を呉々も頼む」と記されており、人一倍家族思いであったことがうかがわれる。

### 3 翻刻 57通の軍事郵便

#### 1 【はがき表】

岩手県和賀郡

藤根村軍人分会

壮丁各位 御中

#### 【はがき裏】

謹啓厳寒候皆□□□□□□□□□□今般入営に際しては御丁重なる御もてなしに預り加ふるに御□□□□深き御言葉を賜り有難度感謝奉候。 出発□□□□□□□□□□被下□□□□の御饒別を給はり重々御厚情深御礼申上候。 御陰様を以て無事左記中隊に入営致候間他事乍ら御休心被下度候。 爾今上司の命□□□□□□誠奉公以て軍人としての務を全う。 以て御厚情に□□□□□□□□□□不□取御礼旁々入営通知まで□□□□<sup>(申上度カ)</sup>斯如御座候。 敬具

弘前歩兵第三十一聯隊第九中隊第

班

高橋徳兵衛

#### 2 【はがき表】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋峯次郎様

#### 【はがき裏】

拝啓、陳者今回入営出發に際し御鄭重なる御饒別を賜り且つ御多用中態々御見送り下され御芳情の段難有<sup>(有難)</sup>御厚礼申上候。

扱て本日無事左記へ入隊仕候間御安神下され度然る上は一意専心国家の為め軍務に勉勵可仕候。 先は御礼旁入隊の通知申上候。 敬具

大正 年 月 日

弘前歩兵第三十一聯隊第九中隊第

班

高橋徳兵衛

#### 3 【はがき表】

岩手県和賀郡

藤根村役場内

軍人分会 御中

弘前歩兵第三十一聯隊第九中隊

高橋徳兵衛

#### 【はがき裏】

拝啓、本日の御手紙有難く御礼申上ます。 会員一同は変りないで

せう。 愚生は変りなく軍務に伏して居ります。 先は御礼迄。

4 【はがき表】

岩手県和賀郡

藤根村字後藤

高橋 峯 次 郎 様

弘前歩兵第三十一聯隊九中隊

高橋徳兵衛

【はがき裏】

拝啓、春暖を迎え凌きよく相なりました。御書面を戴きま

して先生には無事御消光ノ事承りました。其の後、久々

御無音ニ打過きまして誠に申訳ありません事に御用

捨下さい。私も何の変わりもなくして日々の教練をやつて居

りますから御安心下さい。当弘前も余程春気分ト相

なりました。今は野外に出テ陣中勤務で、あの岩<sup>(岩)</sup>

城山<sup>(木山)</sup>の吹き下しの風に耳をなぐられ、歩哨に

たつたり、又射撃をしたりして只忙然として月日を

送つて居ります。一期の検閲ハ四月十九、二十日、二十一日の予定

なそうであります。今、毎夜の様ニ試験で頭をなやめて居ります。

5 【はがき表】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋 峰 次 郎 殿

歩兵第三一れん隊九中隊

高橋徳兵衛

【はがき裏】

拝啓、秋冷日ニ増し加りますが御貴殿等ハ如何御消光

遊され居りますか。小生も御陰様で無事軍務

に服し居りますから御安心下さい。偕耐郷里にて

は秋の取入にて多忙を極め居る事と思えます。

我等は来る二十日には秋季演習ニ出発する

予定であります。今年は山形県に行く

そうであります。寒さも例年に比して強く

あると云ふて居ります。岩城山<sup>(岩木山)</sup>にも三日前

から雪は降りました。尤は時節御身大切

6 【はがき表】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋 峯 次 郎 様

【はがき裏】

寒中御見舞

申し上げます

歩兵三一ノ九

高橋徳兵衛

7 【はがき表】

岩手県和賀郡藤根村

後藤

高橋 峯 次 郎 様

【はがき裏】

謹啓、陳者時下向寒の候と相成申候処御主人様始御一

同様には彌々御健勝の段奉賀候。扱耐私事も重き任あ

る二ケ年も早や夢と過し其の間は格別の御厚情に預

り候て実に忝なく只々有難涙に暮れ居り申候。何卒御

家内様方にも宣布御風声相願ひ度尚々寒さの折柄御  
一家様御健勝の程伏して御祈り申上候。

先は取敢ず御礼まで

恐惶敬具

昭和二年十一月二四日

弘前歩兵第三十一聯隊第九中隊  
高橋徳兵衛

8 【はがき表】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋 峯 次 郎 様

歩兵三十一ノ九中隊

高橋徳兵衛

【はがき裏】

高峯先生御変わりありませんか。嘸かし御達者  
にて御就職の事と御察申します。私もなんの変  
りなく稽古して居りますから御安心下さい。

弘前は桜花散り初めましたよ。家に居る時よ  
りは仕事する時間は少ないけれ共百姓仕事  
よりは疲れます。在郷軍人の総動員の

時は全員兵舎に宿泊するとの事であります。

一ヶ中隊に百名以上。歩三十一では其の準備で  
忙かほしいそうであります

9 【はがき表】

岩手県和賀郡

藤根村字後藤

高橋 峯 次 郎 様  
演習中七戸町

高橋徳兵衛

【はがき裏】

其ノ後は久々御無音に打絶えまして誠に申  
訳ありません。御許しを願います。節変の  
時期御変り御座いませんか。私事御陰様にて毎日  
の演習ニ伏し居りますから御安心下さい。

高藤さんは残留しました。今日旅団ノ對抗

演習終り七戸町で滞在、明日から師団ノ仮設

敵演習で八戸迄で戦備行軍、夜通し、二日

午前中ニ終り午後は観兵式、三日は盛岡ニ汽車輸送、

四日は滞在、五日六日七日八日は四日間我々の期待せ

し大演習、九日は大観兵式であります。

先は一寸。時節柄御自愛專一に。

10 【はがき表】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋 峯 次 郎 様

歩兵三十一ノ九

高橋徳兵衛

【はがき裏】

私召集に際しては色々ご配慮に預  
まして誠に有難ふ御座いました。  
表記の中隊に編入になりました。

皆新戦闘法で初年兵気分

あります。留守中の事は何卒御願致します。先は御礼迄で。

11【書簡】

岩手県和賀郡藤根村

後藤

高橋 峯次郎様

歩三十一ノ九

高橋徳兵衛

【本文】

御書面有難ふ御座いました。郷里の様子は昨年と比較ならんと云ふ事でありますので喜んで居ります。聯隊では去る拾日ヨリ拾八日まで青訓指導員の特別教育を施行して居ります。連隊本部からの通知に依って私も出席して居りますが、私は出席しないと思つたけれども、どうせ同じ日数居るものだもと思つて教育を受けて居ります。現役兵の青訓修了者八十九日除隊なそうであります。我等八十九、二十日と検閲であります。村から来ている現役兵に会つて話しました。下士候補者の二名は聯隊の中でも良好な成績で入つたそうであります。三中隊ノ首沼昌教は上等兵候補に右翼

で入つたと班長は言つて居る。加藤武は機関銃に入つて居るが、候補者に入る時□□り良い方で入らないそうであります。八重樫福見は九中隊に入つて居るが、可成真面目(真面目)であります。

候補者係ノ班長、煤孫から来て居る高橋□伍長であるから私は、御願して居ります。藤枝一夫君は候補者に入りません。

機関銃隊に入つて居る小松国次郎は精勤賞三本付けて居ります。

輜重隊ノ柏葉由吉は衛生隊演習に参加のため、三十一聯隊ニ武装検閲ニ来ました。其の時私は演習して居りましたので面会しやりました。

いづれ私等除隊せぬ内に一等兵ニ進級の発表や精勤賞の附与はあるそうであります。皆相当気合を掛けて居ります。先は一寸御知らせ迄。

12【はがき表】

岩手県和賀郡

藤根村

高橋 峯次郎様

【はがき裏】

謹啓

小生儀

今般入隊に際しましては御繁務中遠路態々御見送り被下且御鄭重なる御心尽を辱ふし、誠に有難く厚く御礼申上候。御陰様を以て本日無事左記

へ入隊仕り候。此の上は唯々粉骨碎身赤誠をもつて御奉公申上る覚悟に御座候間、憚乍ら御安心被下度候。

入隊後は目下非常時局なる秋として小生服務に取り紛れ常々御無沙汰勝の事と存じ候へば何卒不悪御有恕被下成度候。先づは御礼旁々入隊御通知申上度斯如御座候。 敬具

八月二十八日

弘前歩兵第三十一聯隊気付中村部隊川原田隊

高橋徳兵衛

13 【はがき表】

岩手県

和賀郡藤根村

高橋 峯 次 郎 様

歩兵第三十一聯隊本部気付

中村部隊川原田隊

高橋徳兵衛

【はがき裏】

召集第二夜を暮らしました。

表記の部隊に編入になりました。目も治り

ました。横川目ノ照井九郎、高橋民蔵、

更木の松山伍長、二子ノ川辺上等兵等は同じ

部隊である。一切い秘密にされて居りますので知らせ

度いけれども申されません。

村の現役兵皆元氣であります。

高□助役は三大本部付だ。留守中は御頼みます。市内二宿つて居る。

14 【書簡―軍事郵便―】

(封筒なし)

高橋 峯 次 郎 様

歩兵第三十一聯隊本部気付

中村部隊川原田隊

高橋徳兵衛

【本文】

先生、其の後御変り御座いませんか。

私も元氣でありますから御安心下さい。

先日は御手紙有難ふ御座いました。

我が村から来た召集兵は皆元氣であります。召集なつても編成人員は、充

つれば帰宅せねばならぬので三十一聯隊に

未だ二百人以上居ります。此の人達は皆帰ります。私の中隊でも十二人

帰って行きました。

各中隊では分隊長になる下士適任証所

持者は伍長に任官しました。高橋三太郎、

小松国次郎は、分隊長にならんの

任官しませんよ。私は中隊本部で

給与、被服、手紙の係りであります。

石川庄七、高橋徳孝、千田政治

等は三大隊だから毎日会へます。

高橋庄蔵も入隊時の検査

で無事通過して喜んで居ります。

後藤の菊池八兵エ君も徴発馬をひいて居ります。

九月五日に我等の軍旗拝授して其の

奉戴は行はれました。

青年学校の方はよろしく御頼みます。

作物はどうです。

家は呉々も御願致します。

十一二日頃出発の予定の由、秘密につれて居ります。

召集兵皆市内に分宿です。

高德

高峯先生

15 【はがき表】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋 峯 次 郎 様

釜山ニテ

高橋徳兵衛

【はがき裏】

御陰様で陸海無事で釜山ニ上陸しました。先生御変御座いませんか。吾等の責務ハ是から本舞台であります。

皇国のために必ずやります。

留守中の事、呉々も御願

致します。

明日は或方面に。汽車ニテ

16 【書簡―軍事郵便】

大日本

岩手県和賀郡藤根村

後藤

高橋 峯 次 郎 様

【封筒裏】

北支下元部隊中村部隊

川原田隊

高橋徳兵衛

【本文】

拝啓

其ノ後は長い間御無沙汰しまして申訳ありませんでした。先生には御変わりありませんか。

私も御陰様で変りなく其の日くを暮して居りますから御安心下さい。

九月十一日弘前を出発し十三日ニ広嶋に着きました。其処で二日間滞在して

広嶋の宇品出帆は十六日、朝鮮

釜山着十八日であった。釜山に二日滞在、

二十日釜山駅発、五昼夜の汽車

輸送で朝鮮を通り鴨緑江を渡り

満州に入り各駅の歓迎振は

内地で見る能はずあります。下車駅を

指定されて居ります。下京する国防婦人会

の人達は出征兵の頭や洗濯までや

つて下さいました。湯茶の補給は勿論で

ありました。各駅は国防婦人会で庄倒

されて居ります。矢張歓迎は是れに

限る様であります。

やがて、国境、万里長城を越へ、山海関に

入る。満州事変を思へつつ、

支那に入る。いかに敵国とはいえとも

帝国々旗見る事出来ず。

二十五日豊台に着し支那家に一宿、

二十六日行軍にて北平に向った。我が軍

の苦戦せし、広安門を見る。いかにも

苦戦の後はしのばるる。

歩武堂々と喇叭を先頭に入城をした。

宗哲元の居りし処である建物に我が大隊

は宿営して居ります。

二十六日の行軍中に三、四里の地点で砲の

音が聞えました。

盗賊出現するので嚴重なる警戒であり

ます。歩哨は便衣隊に傷つけられて居り

ます。

村の出征兵は皆元気であります。

留守中は御願いします。

では御達者にて。

北支下元部隊中村部隊川原田隊

高橋徳兵衛

高橋峯次郎様

17【書簡―軍事郵便】

大日本

岩手県和賀郡藤根村

後藤

高橋峰次郎様

【封筒裏】

北支下元部隊中村静部隊

井村部隊川原田隊

高橋徳兵衛

【本文】

十一月二十八日真友戴きました。御礼申し上げます。

二十九日には岩手県からの慰問袋

頂戴しました。我九中隊には四五〇ケ

もらへましたが和賀郡の物は更木村ノ

品一袋ありました。

新聞で御承知の通り聯隊長殿

と旅団長閣下は変られました。

戦線で初度巡視で忙かしい。

師団ノ兵キ検査も終った。

徳兵衛

高橋先生

18【はがき表―軍事郵便】

大日本



岩手県和賀郡藤根村

後藤

高橋 峯 次 郎 様

北支下元部隊中村部隊

川原田隊

高橋徳兵衛

【はがき裏】

高峯さん、真友、岩手日報御送付下被ま

して、十一月十九日拝見致しました。村の兵士皆

元気であります。御安心下さい。

十一月九日、十一日、十二日三回弾丸の下を潜った。中隊から

戦死一名負傷一名ある。三中隊で横川目の人は九日

の戦闘で胸部貫銃傷を負ふた。其の他は

皆無事だ。十一月十九日に初雪を見た。相当寒

い。敵兵壕で夜を徹す。今は兵站部から遠いため

一週間以上粟とサツマイモで暮した。

御地にも雪は数回降ったでせう。御身大切ニ。

留守中お願いします。

19 【はがき表―軍事郵便】

大日本

岩手県和賀郡

藤根村

高峯 先生

【はがき裏】

謹啓

寒気酷烈の候、各位倍て御勇健の程奉大賀候

小生無事北支の陣中にて新年を迎へ候間、乍憚御放念

下被度候。亦数度の戦闘に参加致し候も幸に無事

を得たるは、偏に皆様の熱誠なる御後援の賜と感謝感激

仕候。皆様に御礼旁々通信申上度き考居候共如何

せん寸暇もなく其の意を果し兼ね居り候へば、何卒御

許し下被度候。皆様、銃後にあるを思ひ何の慮へなく

只一死報国の念あるのみに御座候。

尚戦闘の続く限り不相変御後援の程奉懇願候。

先は寒厳し折皆様の御自愛の程を遥に御祈申上候。

敬具

下元部隊中村静部隊井村隊

川原田隊

高橋徳兵衛

20 【書簡―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根小学校生徒

御一同様

【封筒裏】

北支下元部隊

中村部隊川原田隊

高橋徳兵衛

【本文】

皆々様お元気で勉強なされてますか。我等も元気で

一同奮戦又奮戦と進軍して居ります。

何時の戦にも皆様が熱血をしほって叫んで下さった万歳

の声、あの人波、旗の波は幾度の戦闘にも思へ出され

忘れません。

遠く離れて北支の戦線それは、容易ぢやありません。堅固な陣地、支那家屋、大きなクリーク、皆さん御想像出来ますか。だが東北男子です。

何時も皆様の神仏祈願叶ひまして破れ

ません。有がたうございます。支那の小学校なんて生徒も先生もチリ／＼バラ／＼です。

皆さん先生の教えを守って、名誉ある学校を益々輝を増して下さい。

何時もの御正月なら、皆様の学校で、先生方と餅を食べお茶を呑み、次に〇〇を呑んで顔をあからめて楽ませて戴きますが、私は今年北支の戦線にて陣中の御正月を迎へ遥か祖国に感謝

し、もつと／＼強くなります事を心に誓っています。

校長先生に時々お便りをいただき、一生懸命励まされて居ります。何時も我儘ばかりして済みません。

校長先生によく申して下さい。お願いします。

今は北支の山多き地方で、石ばかりで作ってます家屋に露営をして盗賊及び共産軍と戦って居ります。何とも云へぬ心持ちで前面の敵を攻撃しています。

異郷の空より立派先生方と生徒に築き上げられた光輝ある学校が益々栄える様祈っています。

皆様御健康にて勉強して下さい。サヨナラ

北支下元部隊中村部隊

川原田隊

高橋徳兵衛

藤根小学校

生徒皆様江

## 21【書簡―軍事郵便】

(宛名不明)

【封筒裏】

北支下元部隊

中村静部隊川原田隊

高橋徳兵衛

【本文】

長い間御無沙汰しまして申訳ありませんでした。先生には御変りありませんか。

御陰様で何等異状なくして日を送り居りますから御安心下さい。御地には雪は二尺位あるそうですが、相当寒い事だらうと思へます。

前にも申した通り十一月九日には任県附近の戦闘

でありました。我が中隊ノ北章固より南章固を攻撃の命令で左第一戦で右二は、第十中隊でありました。御承知の通り支那部落は城壁は四方にありまして我が歩兵部隊の突撃は仲々困難であります。敵前一百米に接近し、後では重機関銃

は屋根ノ上から我を超過射撃をし、亦歩兵砲は射って呉れるので非常にうれしい感じがしました。

歩兵砲はずどんと射つと南章固の部落に命中して破れつするものであります。我が歩兵は

是れより前進は不可能になった。重機の超過射撃ハ出来なくなる。歩兵砲も射つ事出来ない。敵からは猛射をあげせかけられるのであった。

射撃ハ出来なくなる。歩兵砲も射つ事出来ない。敵からは猛射をあげせかけられるのであった。

射撃ハ出来なくなる。歩兵砲も射つ事出来ない。敵からは猛射をあげせかけられるのであった。

時は午後八時、中隊ハ各個に散兵壕を掘り  
中隊長は今夜は此処にて夜を徹し明払曉  
をまつて突撃スル事に意を堅め大隊長に  
報告せよとの事で此の時、自分は命令を  
受け雨と飛來る中を後方の大隊長に行き  
ましたが、前進する時よりも後退する時は  
気持は良くありませんが、弾丸はよくあたらず  
ものだと思へました。

それから十一月十二日には百泉河畔の戦闘でありましたが  
此の時も警察の菊池部長（軍曹）と連絡に出ま  
した。此の時戦死一名、負傷一名ありました。  
此の日の午後には亦移動しました。此の時も亦敗残兵  
と交戦しました。

十二月十二日は観城の戦闘で此の時我が中隊  
は全滅かと思へました。しっかりと敵に包囲されてし  
まったので中隊全員は最終下此処は最期であ  
るから全員覚悟（覚悟）をしろと言ふた時ハ、本当に  
最後の一兵二なるまでやること申合せた。

幸にして戦死（石取屋）<sup>（石鳥谷カ）</sup> 伍長一名あったのみであ  
りました。十二月十四日には清豊攻撃であつた  
が、我が中隊には損害ありませんでした。  
第一大隊長小林中佐は負傷したのは此の時でありま  
す。

是れより尚、南下し黄河の線まで行く命令  
でありました。後十里です。

命令は変更しまして北上する様になり順徳まで  
来て居ります。十二月二十六日に順徳に着し警備し

其の間には十二月三十一日ノ午前三時ニ盜賊討伐ノ出  
動を命せられた事もあります。

明日二月八日には二週間の予定で盜賊討伐に出  
動命令は出ました。元氣で行つて来ます。

それが終わると凱旋だとかと云ふて私物命令で騒いで居  
ります。柏木右工門、武次郎には、手紙の交換をしました。

一月二日に高徳孝、清正、種二、<sup>（高徳孝）</sup> 作蔵、政治、庄七、徳兵衛、  
黒沢尻の魚店佐藤清四郎、笹間の高橋看護兵等

は新年会をやりました。陣中の年越はたいした  
ものですね。

先生に軍曹を要求されましたけれども出来  
ませんよ。諦らめて居ります。

陣中にて一番楽しみは故郷からの手紙と慰問品であ  
ります。二回もらへました。一回は五人で一袋、一回は一人で一袋

でありました。それから江釣子校の一年生の図画は八名  
分来しました。私は本部に行きましたが、なんと

なくうれしかつたね。その内田鎖定男と云ふのがあ  
つたが田鎖一計さんの子供ではないかと思つて居る。

御判読を願います。御達者にて。  
高橋徳兵衛

高峯先生

22【はがき表「軍事郵便」】

大日本

岩手県和賀郡藤根村

高橋 峯 次 郎 様

下元部隊中村静部隊

井村隊川原田隊

高橋徳兵衛

【はがき裏】

先生御変り御座いませんか。私も

一向に変わり有りませんから御安心下さい。

先日青年学校生徒女子から、ただ今は高峯先生

の時間です。出征して居る兵に慰問文を書

けと云はれて、私等は高橋指導員に出す

気持ちになりました。なんて言ふおもしろい

慰問文はまいりました。非常にうれしかつ

たです。兵士みな我と同じであります。

食事中にも手紙が来たとあれば、隊長も

准尉も幹部も皆箸を投げて、手紙分け

です。支那人も旧で歳越でありますね。

旧の年越には徳孝氏と清正氏と三人で医務室で粗酒を呑む。

23 【はがき表―軍事郵便】

大日本

岩手県和賀郡藤根村

高橋峰次郎様

【はがき裏】

紀元節の賀節を○○にて迎へ遥拝

式を行へました。亦明朝早く出発し

ます。今は内地の苗代時の様な

気候であります。朝夕は寒い。

びっこを引きながら山を越へ谷を越

歩きます。

留守中は御願へします。

高橋徳兵衛

24 【書簡―軍事郵便】

日本帝国

岩手県和賀郡藤根村

高橋峰次郎様

【封筒裏】

下元部隊中村静部隊

井村隊川原田隊

高橋徳兵衛

三月十八日

【本文】

長い間御無沙汰しました。

御変ありませんか。

私も御陰様で命だけは

助つて居ります。

二月九日順徳出発し、

山西省の大行山脈

を突破しましたが、此の戦闘

は今までの戦闘とは違つて

山岳戦で、すこぶるはげしい

ものであります。

連日連夜の行軍、戦闘

ですっかりまいりました。

高橋三太郎君、二月十七日戦死

した。亦私の中隊では二十四の戦

關で戦死二名、負傷五名ありました。

此の内黒沢警察署の菊池部長は戦死した。午後六時頃私と

同じ処で突撃準備をし、

射撃、立上って前進せんと

するや敵小銃弾のために

即死した。ばたと倒れ

たので菊池軍曹殿と呼べども答へなかつた。目を開いたまま死んで行つた。私は死んだ菊池軍曹

を背負へ山から下りて此の夜

は岩谷の洞堀(洞窟カ)の中で死人を

守つて夜を明かした。

私とは無二の戦友で寝る時も

だかれて寝て居りました。

惜しい人でありました。

今は陽曲戦の臨汾に守備して

居ります。三月三日に藤根の加藤

清逸君は迫撃砲隊二編成

され、二十師団に配属して

攻撃して、此処まで来たと言ふて面会に来た。

何も語る事なく涙をのんで手を握つた。親子の対面

よりもまだく親しいかつた。

徳孝氏にも会つて五日に出発し、

南下して行つた。

私は三月一日付軍曹に進級しました。中隊で伍長二十一名あります。

其の内四名は進級しました。

御陰様であります。

先生の方から皆様よろしく御願

します。

高橋徳孝氏、菅沼清美氏軍曹になった。

高橋正人、高橋千太郎上等兵になった。

まだ伍長進級はありません。

高峰先生

徳兵衛

25【書簡―軍事郵便】

大日本帝国

岩手県和賀郡

藤根村

高橋 峯 次 郎 様

【封筒裏】

下元部隊中村静部隊

井村隊川原田隊

高橋徳兵衛

四月七日

【本文】

拝啓、長い間御無沙汰しまして申訳ありません。御変り御座いませんか。御陰様

で私も何の変わりありませんから御安心下さい。

内地も相当忙はしくなりましたね。

当地は梅桃の花満開であります。時々

雨も降りますが、まず天気続きであります。

三月十八日の戦闘で可成り苦戦しました。

我が中隊でも戦死三名、負傷十六名あります。

我が軍の兵力は歩兵二ケ中隊、山砲一ケ中隊、

機関銃一ケ小隊、大小行李等デ五百名

ばかりでした。我軍の死者五十七名、負傷者百

十二ありました。横川目の照井九郎軍曹

も負傷しました。藤根村から参加した者は

徳孝、種次、政治、徳兵工の四人であり

ましたが、皆無事であります。

高橋藤作氏と四月四日会へました。水

筒の酒を貰い喰のみました。介休の駅で

あったので南北に別れました。

平遥駅に来た処が、元藤根隊長であった

中田鉄太郎氏は満鉄派遣となつて服

務して居り、なつかしい面会をした。

順徳二月九日出発以来故郷の手紙

は手に入りません。変つた事はありませんか。

少しも解りません。変つた事はありませんか。

留守中御願します。

臨汾警備は二十師団二中送り

四月三日臨汾発列車ニテ北上ス。

初県二百〇九師団警備シアルヲ交代シ

我が中隊居ル。

高橋藤作臨汾ニ移病院の爲め南下ス。

26 【書簡―軍事郵便】

大日本帝国

岩手県和賀郡

藤根村

高橋峯次郎様

【封筒裏】

下元 中村 井村

川原田隊

高橋徳兵衛

五月六日

【本文】

先生御変りありませんか。徳兵衛も無事です。

山西省の同蒲線を四月二十八日出て正太線ヲ通過

し京漢線石家荘ニ至りて天長節をした。

同蒲線は毎日の様に鉄道破壊でわづか一ケ大

隊の兵力輸送に二十日間もかはかつた。

支那軍は白昼鉄道警備隊を襲撃して

来る。今では京漢線の方もやられる様になつた。

石家荘の輸送にて南下し、新郷駅にて下

車し部隊の集結を待つて居る。集結尚行軍

で南下し、黄河近くにて守備し後亦

黄河を渡る。横橋であります。

暑いこと九十度以上ある。行軍は困る。

此処、四五日中には聯隊と合するから

手紙は受け取ることは出来るかと思へます。

麦はすっかり実り、赤くなりました。

梅や桃は大きくなった。

内地も今頃は尻に火が付いた程忙がしいでせう。飛行場なんか、なんとなりまして。留守中は御願します。

高橋徳兵衛

高橋先生

27 【書簡―軍事郵便】

大日本帝国

岩手県和賀郡

藤根村

高橋 峯 次 郎 様

【封筒裏】

下元部隊中村部隊川原田隊

高橋徳兵衛

五月十一日

【本文】

三月の真友有難ふ御座いました。

二月九日以来御手紙を受取ることが出来ませんでした。五月六日皆さんからの熱誠なる御手紙をいただきました。青年学校生徒からも五六通

ありました。全部で八十余通ありました。

五月八日京漢線の終点新郷附近より

行軍にて汗は流れどし、色の黒いこと中隊

一番、髭か顔か見分はつかんと戦友に笑はれる。

来る途中、敵は部落に潜伏し居て大部

隊の通過後、後方の車輛を襲撃し監視

兵となつて居る我が第二中隊で死者一名、

重傷一名出した。九日目的地に着し警備して居る。是れから討伐に出るでせう。

前の守備隊は附近の討伐に出て民家を焼

払つて来たので、其の人民は支那軍隊と連絡を

取り毎夜やつて来ます。

戦には負けられませんね。支那人の食物は絶

へ木の葉をこき取り、亦青麦の穂をもぎ

取つて手でもみ、のぎを落して食べて居ます。

見るも悲惨なるものがあります。

三ヶ月振りで菅沼清美、小松円次郎、伊藤作蔵

君に会へました。皆元気であります。

御身を大事に下さい。

高橋徳兵衛

高橋先生

28 【書簡―軍事郵便】

大日本帝国

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋 峯 次 郎 様

【封筒裏】

下元部隊中村部隊井村部隊川原田隊

高橋徳兵衛

五月二十日

【本文】

先日御手紙にて申した通り、五月八日新郷を行

軍にて封邸二向へり。途中敵襲を受けり。

九日封邱二着ス。十二日亦行軍にて道口鎮二向へり。  
第二日に其地出發し、朝一時間位歩いた。亦敵襲  
に会へり。敵約四百名、我が死者三名、負傷七八名  
ありました。敵の死体殆ど山をなす。

十四日道口鎮に着ス。翌十五日自動車にて黄河  
河岸の彭家樓と云ふ処に來ました。すぐ黄河に  
行き見ましたが、工兵隊の渡河振りは本當に  
涙ぐましいものはありました。渡河点を四ヶ所  
に設て自動車に糧秣を積載し□□ス。鉄ノ舟  
に□□そして渡河□□□□我々も近く渡河  
します。我が中隊の一小隊は渡河しました。  
私も連絡のため渡河して見た。此処には電氣  
隊も居るし、亦照空隊、高射隊、色々な隊  
居る。時々敵の飛行機襲來する。  
先頃も敵の飛行機七台來て機関銃を  
撃ち我が軍に十名の犠牲者を  
出した。

四月二十七日出しの葉書五月十七日受  
取りました。

先生、余り奔走のため、健康を害  
す様なことのない様に御注意下さい。  
では御自愛專一

高橋峯次郎様

高德

29 【はがき表―軍事郵便】

大日本

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋峰次郎様

川原田隊

高橋徳兵衛

六月二十二日

【本文】

補充兵各中隊へ配属に

なりました。菊池熊夫君は

十一中隊（原泉隊）に入った。

我が中隊ニモ七名入った。

和賀郡から笹間の

高橋安定君が入った。

亦命令あり。

他に移動ス。

後で知らず。

30 【書簡―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村

高橋峯次郎様

【封筒裏】

谷口部隊中村静部隊井村隊川原田隊

高橋徳兵衛

七月十六日

【本文】

炎天下にも御嫌ひなく元気に奔走のこ



とと御察申します。

私も変りありません。

六月下旬、亦山西入りをすることとなり毎日

西へ西へと進み戦闘の旅を続け居ります。

山西は軍民一致、抗日は徹底して居りまして

部落民は居りません。

飲料水は、無くて困る。三百戸も四百戸もある部落

で井戸は二つ位。深さは七十尋もある。

毎日雨天で車両や自動車の運行困難

のため、糧秣の補給も思う様に行かずこまっ

て居ります。これが戦地でせう。

ラジオニュースで承れば、ソ連との空気は

険悪になつて居る様ではありませんか。一触即発

の態でありますね。

菊池熊夫君も元気で居ります。

補充兵で入った若者は、老兵の我等よりは

行軍力は一般にありませんね。

愈々青年の教育を重大なること痛感す

る時期は参りましたと思へます。何卒

訓練生に心身共に錬磨されます様御

願します。

時節柄御自愛專一を祈上ます。

高橋先生

徳兵衛

31【書簡―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋 峯 次 郎 様

四月四日 歩七三ノ

補充第二中隊

石川重太郎

【封筒裏】

谷口部隊中村部隊川原田隊

高橋徳兵衛

九月八日

【本文】

八月十五日の新聞有難く受領しました。

変りありませんから御休心下さい。

八月三十日に私臨汾駅警備して居りましたら

午後三時若い兵隊沢山乗せた列車が来まし

た。すぐ出て、郷里は何処と聞くと第八師団

補充兵とあるので、もし村の人は来て居らんか

□□□□□□□□して尋ねて見たら、伊藤初太郎、

伊藤武雄君、野中□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□軍旗□

□□□□□□□□下給品はあがったので、三人ニ

パイノ缶詰を一ケづつ、卵二ケづつを与へ

て二時間程色々故郷の御話を聞き

ました。三人の者も、うれしかった様だが

私は尚うれしかった。石川寒太郎、高橋

民雄の召集の事、亦他村に補充兵

召集なつたことも聞きました。石川寒太郎組は

どこへ行くのでせう。

伊藤両特務兵曹は、高橋徳孝氏、清正氏

に会へたいと云ふて居られたが、離れて居つたので

会はなかつた。我等の中隊は停車場警

備のために偶然に会ふことは出来た。

民蔵(煤孫)の君も武田正人(補充兵)ニ会

ふ。江釣子村滑田の下瀬川と云ふ工兵

も来られた。皆元気でありました。

コレラ病発生地帯を通ふて来たので

下車せず二里程南の部落に隔離され

一週間も居るそうです。六日に来て

歩兵十七聯隊特務兵は師団輜重隊の

近風隊に入隊するそうです。

我等は十七聯隊と交代して、九月十日出発し

て南進します。大きな戦闘は予想

されます。やつて来ます。

では御身を大事に

留守中は何卒御願します。

高橋徳兵衛

高峯先生

32【はがき表―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村

高橋 峯 次 郎 様

川原田隊

高橋徳兵衛

九月二十四日

【はがき裏】

七月号真友いただきました。

私し元氣です。

軍隊にコレラ病流行しています。

病死者も沢山あります。

農作物平年作と聞いて安

心しました。

先生の御健康を祈ります。

33【書簡―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村

高橋 峰 次 郎 様

【封筒裏】

谷口部隊中村静部隊川原田隊

高橋徳兵衛

十月五日

【本文】

新聞や御便り有

難ふ御座います。

私無事です。

青年学校の査閲御苦

労様でした。

其の後亦大召集があったそうです

ね。其れは我々の交代であるまいか

などと云ふて、山西の山岳膺徴の

任に就て居ります。

此の度の作戦は、さきに十四師団や

秋田の十七聯隊のなやまされた場所

であつて二十師団と我等五十二聯、五聯

隊で総攻撃するのであります。

相当の犠牲は免れまいと予想し

て居ります。

我が大隊ハ旅団の指揮下でありまし

て余り危険はありません。一二大隊

は可成の激戦であつたから

死傷者はあるでせうが山の中で

連絡は取れませんが村の人達の消

息も解りません。

今日は敵も居らず砲銃声もせず

極めでのんびりした日である。例の

かめ風呂に入り郷里の収穫時の忙

しさを想浮かべて居ります。

「秋晴や戦塵洗ふ野天風呂」

では御体を大事に

高橋徳兵衛

高峰先生

34 【書簡―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村

高橋 峯次郎様

【封筒裏】

谷口部隊中村部隊川原田隊

高橋徳兵衛

十月十日

【本文】

大分召集になりましたやうですね。

我等の交代ではなからうか、などと言ふて毎日

同じ戦闘の旅を続けて居ります。

今期□□黒沢尻小学校に居る伊原実准

尉殿は戦死なされた。其の他沢山ありませうか。

離れて居るためわかりません。村の人達は無事

なれと祈つて居ります。

八月一日付で□等兵は伍長に任官したが藤

根村からは任官しません。小松君も平病で入

院中であつたので任官せぬ様です。遺憾でした。

我が中隊でも適任証ヲ所持しても任官せぬ

者二名あり。亦所持しなくても四人任官した。

中隊で十八名任官あります。煤孫ノ高橋民蔵君

は任官した。

加藤清逸君は漢口攻撃に出て居るでせう

か。高橋善一君は任官しましたか。

今年の入営兵も沢山ありそうだね。

御体を大切に

徳兵衛

高橋先生

35 【書簡―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村

高橋峰次郎様

【封筒裏】

谷口部隊

米岡部隊川原田隊

高橋徳兵衛

【本文】

新聞受けました。有がだう御座います。元氣ですか、御放念下さい。

高橋徳孝氏と毎日会って話します。

そろ／＼○○の話もあります。

何年兵までは○○出来るとかなんとかで

大騒ぎ、それも根拠のない話。いづれ□□

いた方は一部○○出来る様子、我等□

後廻しかと思つて居る。徳孝氏も矢張り

同じだ。山西の洞堀生活（洞堀ッ）もあきた。

討伐に出て支那家屋に宿ると虱はたかるし

困った。御体を大事に

36 【書簡―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村

高橋峰次郎様

【封筒裏】

谷口部隊

米岡部隊川原田隊

高橋徳兵衛

十一月一日

【本文】

(なし)

37 【書簡―軍事郵便】

大日本

岩手県和賀郡

藤根村

高橋峯次郎様

【封筒裏】

谷口部隊

中村部隊川原田隊

高橋徳兵衛

十一月二日

【本文】

(本文は他の人の手紙である)

38 【書簡―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村

高橋峯次郎様

【封筒裏】

谷口部隊

米岡部隊川原田隊

高橋徳兵衛

十一月十八日

【本文】

十月三十日出しの御手紙十一月十五日受取りま

した。御守やいろく／＼なニュース有難  
ふ御座います。先生は相変らず元気にて  
御奮闘の由感謝に堪へません。

御陰様で徳も元氣ですから御安心下さい。

御送付下さる新聞は届いて拝見さして居り

ます。今警備して居る所は山西南部、

東冷口と云ふ(小さな)部落に居ります。

其の部落から三里位離れた山に登って

警備です。其の山の高さは四千尺(海拔)

位の山です。何所を見ても、そんな山

です。寒いこと話になりません。十一月ノ初め

から水も氷(凍)つて居ります。山の上の警備は

十日位の交代ですが、穴を掘って二人位い

づつ入って、□□□□□□□□□□

水をくみに行くに、一里も山を下って来ます。

薪もありませんで一里も二里も離れた部落

に行き支那家屋をこわして、運搬し

ます。食物は作戦行動(戦闘中)中

は、どんどん前進するので糧秣(ついで)続かず

一日に米(ついで)一日二二合、麦一合位いで暮した。

まだそれでよい方です。何んにもなくて、キミ

を食べて日を送ったこともあります。

今は警備中ですから米も麦も定量に

渡されます。一日二米四合、麦二合です。

炊事は支那人、鍋で共同炊事をし

て居ます。

被服は十月二十七八日に夏物と冬物を

交換した。毛布は一人二一枚半ノ割

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

十二月十七日

【本文】

第四回補充員十二月十五日入隊す。

我が中隊二十六名

近日中に老兵帰かんす。

我は某の時ハ帰られません。

大正十二年兵以前は帰られる。

下士官は来年ノ三月三十一日兵役ノきれる

下士官だけ、徳孝、菅沼両氏は帰

られる様だ。

俺等はいつになるでせう。

高橋徳兵衛

高橋峰次郎様

40 【書簡―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋 峯 次 郎 様

【封筒裏】

谷口部隊

米岡部隊川原田隊

高橋徳兵衛

十二月十九日

【本文】

十二月十七日に補充員名簿見たら菅沼

堅治君は茅三中隊に編入になって居るの

で茅三中隊に行き、笹間から来て居る

小原徳右エ門軍曹と話し菅沼堅治の

ことも聞いたたら、茅三中隊に入隊し聯隊機

関銃隊に臨時編成ノため、亦編入あつた

とのことで聯隊機関銃隊に行きましたら

堅治君は夕食の仕度をして居った。

色々郷里の懐かしい話を聞いた。それから菅沼

清見のところへ連れて行つた。菅沼氏は相

変ず飲んで居つた。私の居るところとは二里も

離れて居るので午後五時別れて来ました。

横川目村の菊池勝治と云ふ兵も一緒

居る。我が中隊には十六人入つたが和賀郡

から一名も入りません。

菅沼堅治は、未だ小松君と菊池熊雄

に行軍途中会つただけだと言ふて喜ん

で居ります。元気です。

寒さ厳しくなつてまゐりました。

御体を大切に

高橋徳兵衛

高橋先生

41 【書簡―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村後藤

高橋 峯 次 郎 様

【封筒裏】

川原田隊

高橋徳兵衛

【本文】

謹啓

戦捷の新年を謹みて御祝申上候。

多事多端なる十三年の暮、慈二渡支二回の新春を  
迎え感激一入身に泌み申候。

年頭に当り銃後の絶大なる御後援を深謝シ尽忠報  
国の念を新に以て東洋永遠の平和確立の為、更に  
一段の努力致候間、何卒相不変御声援御鞭撻を  
賜り度願上候。

貴家御一同の御健勝を遥に祈上候

敬具

一月元旦

高橋徳兵衛

高峰先生

42【書簡―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村

高橋峰次郎様

【封筒裏】

谷口部隊米岡部隊川原田隊

高橋徳兵衛

一月十一日

【本文】

永く御無沙汰申しました。

徳孝、菅沼清美、庄七、種治  
の連中一月九日帰還しました。

別れ時ハ余り良い気持も

しなかった。殊に徳孝氏と

別れる時は手を握りしめ

て涙をためた。

我等より先に召集になった

久内、清逸、忠孝氏等は

未だ帰りませんか。

詳しい事は此の人達から御聞き

下さい。御体を大切に。

高橋徳兵衛

高橋峯次郎様

43【書簡―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村

高橋峰次郎様

【封筒裏】

谷口部隊米岡部隊川原田隊

高橋徳兵衛

【本文】

一月号真友御送り下さいまして

誠に有難ふ御座います。

先日の御便りに近い内に一月号

送るとありましたので手紙の来る度

ハトロン封筒は来ないかと見て待つて

居りました。二月八日に戴きました。

郷里から御出し下さる手紙は皆な

詳しいことは高峯先生からの真友を御覧下さいと書いてあります。

村の様子を知るには真友は一番、

家のことは矢張りカカの手紙です。

近日中に某方面（軍密）に移動（討

伐）する。今一頑張りやります。

御体を大事に

高橋徳兵衛

先生

44【書簡―軍事郵便】

（封筒なし）

【本文】

先日は珍しい御手紙下されまして有難ふ

御座いました。

去ル二月十五日までは、徳孝氏等から御聞きで

御判りでせうが險峻極まりない高地警備

をなし、更に新任務に就かんため、二月十五日出発

途中討伐をなし、相変ず山亦山谷亦谷

越で二月末現在地に来て警備して居ります。

此処は、前任地よりは山は少なくありますが

敵は昼夜の別なくやつて来ます。

毎日の討伐もあきれません。之が我々の任務

とやらで、仕方ありませんな。

先般青年学校の生徒の寄せ書の御手紙

とてもうれしかった。戦友達に見せたら

大笑へ。

今年は十数年来の寒さとかで御体を大事に

高橋徳兵衛

高峰先生

45【書簡―軍事郵便】

岩手県

和賀郡藤根村

高橋 峯次郎 様

【封筒裏】

谷口部隊米岡部隊川原田隊

高橋徳兵衛

【本文】

先生には其ノ後も御健闘ですか。

北支山西の山岳戦線にも春が来て陽光

を浴び乍ら相次ぐ討伐行に元氣一杯

です。

目下閩錫山系ノ独八旅ノ根拠たる〇〇に

於テ砲煙ノ渦と喊声の浪に明け暮れて

ゐます。

最近は、殊の外商売大繁昌で昼夜の別

なく御得意先の出張に依り開業の

有様で、仲々目真苦しい当今です。

三月十九日ノ十時頃も敵の砲弾我が宿営地

に落下し、宿舎の屋根を破壊し、丁度

砲弾は不発の為め無事を得ました。

なんと顔に色はありませんよ。

新聞紙にて御承知のことと存じますが、最近



の犠牲者笹間村の小原徳右工門軍曹、  
谷内村の阿部軍曹、梁川村の菊池  
軍曹、其他まだ／＼ある。

我が中隊、負傷四五名出来だ。  
是等の方方に対してはお気毒  
な次第であります。

殊に阿部軍曹の臨終たるや

我々は涙なくしては見られないもので、

□□□した。天皇陛下の万歳を

唱え、私は同郡であり

同年兵であるから阿部君しつかり

しると云ふと、高橋君が俺は

大丈夫だと云ふて呉れた。

二時後(二時前後カ)に陣中の花と散られました。

俺等しつかりやります。

先生御健康をお祈します。

46 【書簡―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村

高橋 峯 次 郎 様

【封筒裏】

谷口部隊米岡部隊川原田隊

高橋徳兵衛

【本文】

御変りありません。御陰様で私も変りありません  
から御安心下さい。先般申上げた通り今は

濁水流る黄河沿岸にて警備について居ります。

北支は暑い時は百度以上十五度もなる。そうかと思ふと  
此の頃は時々降雨ありまして、ずいっと寒くなつたり  
する。氣候の変更ありまして体の具合の悪いものは沢山  
出ます。だんだんに雨期に入る様な模様で  
す。警備についても毎日敵の襲来(襲来)あります。

下士哨や巡察で、亦夜蚊や蠅で眠る(眠れ)ません。

故高橋三太郎君の遺骨は六月十日頃北支を

出發して奉送(奉送)するそうです。昨年の十二月頃、戦死

された方の遺骨もまだ送られなかつた様です。同

時に行くそうです。其の遺骨護送の奉拝者として

各中隊から下士官一名づつ行くそう

ですが、私は其の選に入りません。

我が中隊からは小熊軍曹が行きます。

田植でお疲労れでせう。御体に気を付け

なさいまして我々のために何卒御願えします。

私等の居るところは敵の真中でありまして、部落

には一人も居りません。十里も離れた所

なれば麦刈はすでに終わりましたが、此処は少し

も刈り取れることは出来ません。支那軍隊は毎日の

様にやってくるので、亦我軍も之に応戦し、正規

軍であろうと敗残兵であろうと地方民であろう皆

射撃をするのであるから困るでせう。

先日中隊は攻撃前進の際、散開して前進

したところは、畑で働いて居る地方民は逃場を失(失うも)

麦畑にすくたまって、ぶる／＼して居った。女も居れば

子供もある。でも兵隊は気が張って居るので罪のない

女子供も殺して前進する。悲惨なものですね。亦村の出身者達と離れてから一ヶ月以上になるので皆の様子は解りません。では近況まで。

徳兵衛

高峯先生

47【絵はがき表―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村青年校女子部

高橋タケヨ

菊池カラリ 様

小原ノヨ

米岡部隊川原田

高橋徳兵衛

【本文】

皆さん御元気ですか。

御手紙ありがたう御座います。

私も変りありません。

北支にも春は訪れて

参りました。

木の芽も青くなった。

私の顔は黒くなった。

皆さんの顔も見なくなつ

た。でも御国のためだか

ら、辛棒<sup>(辛地)</sup>する。

御体を大切に

48【絵はがき表―軍事郵便】  
岩手県和賀郡  
藤根村

高橋

高橋 峯次郎 様

北支谷口部隊井上隊

菅野隊ノ高橋徳兵衛

【本文】

御陰様で四月から曹長になった。

49【絵はがき表―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村

高橋 峰次郎 様

谷口井上

菅野隊 高橋徳兵衛

【本文】

暑中御見舞

元気で居らるか高峯先生

銃後を護る先生は今

土用の暑さ身に受けて

村内駈<sup>(駆け)</sup>歩く姿、貴さよ。

私も大陸の陽にやけて真

黒になってやっています。

御健康を御祈します。

軍次郎、慶蔵二未だ会へません。

50 【はがき表―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村

高橋峰次郎様

北支谷口部隊

井上部隊菅野隊

高橋徳兵衛

【はがき裏】

亦暑い夏が参りました。

先生には御変りなき由、私も元気です。

三月号真友五月十一日戴きました。

有難ふ御座居ます。

岩崎村山口の人で看護婦として我々が居

る臨口に来て居ります。患者見舞に

行き会って話しました。

岩手県から只一人とのことです。

伊藤初太郎、民蔵は毎日自動車□□□□

輸送して居る。皆元気です。

では御身に御留意あられて。

51 【はがき表―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村

高橋峰次郎様

【はがき裏】

長い間御失礼申しました。

御変りませんか、御陰様で元気です。

七月の真友、八月二十七日受けました。有難ふ御座

います。田鎖助太郎君、我が中隊に編入にな

りました。一生懸命にやって居ります。

菊池慶、菊軍、加克、菊池に未だ会へません。

詳細は千田政治に御聞き下さい。

其ノ後、あまり長いこともありますまい。

井上部隊菅野隊

高橋徳兵衛

52 【書簡―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村

高橋峯次郎様

【封筒裏】

谷口部隊井上部隊菅野隊

高橋徳兵衛

【本文】

暑い夏も過ぎ身に冷風を感じる様になりました。

先生には御変りありませんか。御陰様で無事です。

去る八月二十七八九日ノ討伐の際、例の高い山を

進軍中高地上で休憩して居りましたら、歩兵砲

隊二入隊して居る長沼ノ高橋福治君に声をか

けられた。曹長殿は長沼ノ人でないか、云はれて見ると

重松殿の弟であること感付いた。

又、九月三日ヨリ十日までの某方面討伐の時、私も参加しまし

たら、騎兵隊ノ伊藤秀一君、菊池林一君、野中

ノ伊藤チヨさんの息子義信君に偶然と合へ

ました。菊池林一君は居るとは夢にも思はなかつた。林一も、喜んで居り又皆元氣であります。

九月一日付で一等兵になったと言ふて居ります。

田鎖助太郎君も行きまして五人一<sup>籍</sup>に長々話しました。写真を写しまして一枚づつ分てやりました。

討伐より帰つて来たら、菅沼堅治君は面会に来て呉れました。九月一日付で上等兵に進級して居ります。

あの当時入隊した初年兵の内に進級したのは成績の優秀の者ばかりです。

加藤勝見、菊池軍次郎、菊池福には未だ

会えません。

近日中に我々も○○出来る様子あります。

五人で写った写真一枚御送ります。

御笑覧下さい。

高橋徳兵衛

高峯先生

53 【書簡―軍事郵便】

岩手県

和賀郡藤根村

高橋 峰次郎様

【封筒裏】

北支谷口部隊井上部隊菅野隊

高橋徳兵衛

十月九日

【本文】

(本文なし)

54 【書簡―軍事郵便】

(封筒なし)

【本文】

北支は柿の出盛り十錢十五ヶ買へる。麦は三四寸伸びた。綿は収穫期です。

北支も鉄道沿線は相当目覚めて

参りました。

各県では青年の優秀なる者を

集め青年訓練所を開設し

て居ります。内地の訓練所生の様な

ことをやつて居ります。査閲もあり

ました。対抗運動会もあつた。

我々の○○は都合により少し

伸びました。御身大切に

高橋

高橋先生

55 【はがき表―軍事郵便】

岩手県和賀郡

藤根村

高橋 峯次郎様

井上部隊菅野隊

高橋徳兵衛

【はがき裏】

長い間御失礼申しました。

先生御健在ですか。

私も真黒になってやって居ります。

降雨の為め交通機関が不通となり

音信も出来ませんでした。やうやく応急工事が

出来まして、開通してゐます。

新聞を御送り下さいまして有難ふ御座います。

郷里からの便りにて菊池慶造君負傷を知り

ましたが、今に至って其の真相は解りません。

離れて警備に就いて居る為

先生の健顔を拝する日は近い様だ□

御体を大事に。

56 【書簡】

岩手県和賀郡

藤根村

高橋 峯次郎 様

【封筒裏】

高橋徳兵衛

【本文】

御変り御座いませんか。平素は御無信御許し下さい。

御陰様で無事帰還しました。去る十八日弘前ニ到着

し残務整理をやって居ります。

千葉徳右エ門君の中隊ニ配属なつて居ります。

休暇中より帰隊後親しく話し合へました。

石川忠君、伊藤初治君より御聞きのことと

思へますが、作戦の都合ニより原田利一君、

小原善吉君は私等ヨリ少し遅れましたが、

去る二十一日弘前に到着しました。矢張り一週間も

営内に居りまして帰ることと思つてます。

私等は十一月二十五日午後二時五十八分ノ藤根着で

帰り度と思へ居ります。

では詳しいことは御合の節申します。<sup>(御合)</sup>

取敢ず帰還の御挨拶を申します。 敬具

高橋徳兵衛

高橋峯次郎様

57 【はがき表】

後藤

高橋 峯次郎 様

【はがき裏】

来ル本月二十一日改選セラルル本村々々議員候補者加藤

勝之助君死亡ニ依補欠候補者ノ銓衡ヲ去ル十五日翼

賛藤根村政建設委員会ニ於テ施行致シマシタ処

藤枝忠雄君ヲ最適任者ト認め推薦致シマシタカラ

同君へ清キ一票ヲ必ス投セラレ当選の荣誉ヲ与へ下サル様

偏ニ御願ヒ致シマス。

六月十七日

設委員翼賛藤根村政建会

委員

高橋弥右エ門 高橋勇太郎 高橋仁太郎

菊池林之助 藤枝清助 高橋嘉次

菅沼清美 武田作右エ門 高橋徳兵衛

(北上市農林部、国立歴史民俗博物館共同研究員)

(二〇〇二年四月三〇日受理、二〇〇二年六月二八日審査終了)

No	消印	日付	発信地	発信時の所屬	形式 ◎は軍事郵便	検閲欄	内 容
28	なし	昭和二三・五・二〇	北支	下元部隊中村部隊井村部隊川原田隊	封書◎	検閲済	新郷から封邱、黄河を渡り彭家楼に來た。
27	なし	昭和二三・五・一一	北支	下元部隊中村部隊川原田隊	封書◎	検閲済	野飛行場はどうなったのか。
26	なし	昭和二三・五・六	北支	下元部隊中村部隊井村部隊川原田隊	封書◎	検閲済	石家莊で天長節をした。新郷駅で部隊の連絡を待っている。後藤
25	なし	昭和二三・四・七	北支	下元部隊中村部隊井村部隊川原田隊	封書◎	検閲済	三月一八日の戦闘で死者五七名、負傷者一二名あった。二月九日順徳を出発以來故郷の手紙は手に入らない。
24	なし	昭和二三・三・一八	北支	下元部隊中村部隊井村部隊川原田隊	はがき◎	検閲済	山西省大行山脈突破。連日連夜の行軍戦闘。高橋三太郎戦死。黒
23	なし	昭和二三・二・一二か	北支	(本文なし)	はがき◎	検閲済	紀元節の賀節を迎えた。朝夕は寒いのでびっこをひいて歩いている。
22	なし	昭和二三・二・二か	北支	下元部隊中村部隊井村部隊川原田隊	はがき◎	検閲済	青年学校生徒女子から慰問文を受け取った。支那人も旧で年越し
21	なし	昭和二三・一・七か	北支	下元部隊中村部隊井村部隊川原田隊	封書◎	検閲済	十二月二六日順徳到着。一月二日新年会。先生に軍曹を要求され
20	なし	昭和二三・一・一か	北支	下元部隊中村部隊井村部隊川原田隊	はがき◎	検閲済	た。陣中での一番の楽しみは故郷からの手紙と慰問袋。
19	なし	昭和二三・一・一か	北支	下元部隊中村部隊井村部隊川原田隊	はがき◎	検閲済	寒中見舞い。無事北支の陣中で新年を迎えた。
18	なし	昭和二三・一・一か	北支	下元部隊中村部隊井村部隊川原田隊	封書◎	検閲済	藤根小学校生徒一同へ。北支戦線の陣中で正月。今は北支の山多
17	なし	昭和二三・二・二か	北支	下元部隊中村部隊井村部隊川原田隊	はがき◎	検閲済	き地方で露営している。
16	なし	昭和二三・一・〇・六か	北支	下元部隊中村部隊川原田隊	封書◎	検閲済	二月二八日真友受取る。二九日慰問袋四五〇ケもらえた。聯隊
15	昭和二三・九・二〇	昭和二三・九・二〇	釜山	於釜山	はがき	検閲済	朝鮮、鴨綠江を渡り満州、山海関に入り二五日豊台、二六日北平
14	なし	昭和二三・九・九か	弘前市	弘前歩兵第三一聯隊本部気付中村部隊川原田隊	封書	検閲済	釜山に上陸。是から本舞台である。
13	昭和二三・八・二九	昭和二三・八・二八	弘前市	弘前歩兵第三一聯隊本部気付中村部隊川原田隊	はがき	検閲済	中村部隊に編入になった。照井九郎、高橋民蔵等と同じ部隊。
12	昭和二三・八・二九	昭和二三・八・二八	弘前市	弘前歩兵第三一聯隊本部気付中村部隊川原田隊	はがき	検閲済	中隊本部で、給与、被服、手紙の係となった。九月五日に我が隊
11	昭和二三・七・一三	昭和二三・七・一三	弘前市	弘前歩兵第三一聯隊第九中隊	封書	検閲済	の軍旗拝授した。
10	昭和二三・七・二	昭和二三・七・二	弘前市	弘前歩兵第三一聯隊第九中隊	はがき	検閲済	高橋峯次郎へ入隊通知。
9	昭和二三・五・五	昭和二三・五・五	七戸町	於七戸	はがき	検閲済	寒中見舞い。
8	昭和二三・五・五	昭和二三・五・五	弘前市	弘前歩兵第三一聯隊見学中隊	はがき	検閲済	入隊して、二ケ年が早くも過ぎ去ろうとしている。
7	昭和二三・五・五	昭和二三・五・五	弘前市	弘前歩兵第三一聯隊第九中隊	はがき	検閲済	百姓仕事より疲れる。三二聯隊は総動員の準備で忙しそうである。
6	昭和二三・二・一	昭和二三・二・一	弘前市	弘前歩兵第三一聯隊第九中隊	はがき	検閲済	演習終わり、七戸町に滞在。明日から八戸で演習。
5	大正一五・二・一六	大正一五・二・一六	弘前市	弘前歩兵第三一聯隊第九中隊	はがき	検閲済	召集になり三二聯隊第九中隊へ編入。皆新戦闘法で初年兵の気分。
4	大正一五・一・二一	大正一五・一・二一	弘前市	弘前歩兵第三一聯隊第九中隊二班	はがき	検閲済	青年訓練指導員の特別教育を受けている。除隊しない内に進級の
3	大正一五・一・二一	大正一五・一・二一	弘前市	弘前歩兵第三一聯隊第九中隊二班	はがき	検閲済	発表や精勤賞の附与があるようだ。
2	大正一五・一・一〇	大正一五・一・一〇	弘前市	弘前歩兵第三一聯隊第九中隊	はがき	検閲済	高橋峯次郎へ入隊通知。
1	大正一五・一・一〇	大正一五・一・一〇	弘前市	弘前歩兵第三一聯隊第九中隊	はがき	検閲済	藤根村軍人分会へ手紙のお礼。

57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29		
昭和 一七・六・一七	昭和 一四・二・二二	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	昭和 一四・一・七	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
昭和 一七・六・一七	昭和 一四・一・一・か	昭和 一四・一〇・九	昭和 一四・一・一・か	昭和 一四・八・二七か	昭和 一四・九・一五	昭和 一四・七か	昭和 一四・七か	昭和 一四・七か	昭和 一四・五か	昭和 一四・四か	昭和 一四・四か	昭和 一四・三か	昭和 一三・二・一七	昭和 一三・二・一七	昭和 一三・二・一七	昭和 一三・二・一七	昭和 一三・二・一七	昭和 一三・二・一七	昭和 一三・二・一七	昭和 一三・二・一七	昭和 一三・二・一七	昭和 一三・二・一七	昭和 一三・二・一七	昭和 一三・二・一七	昭和 一三・二・一七	昭和 一三・二・一七	昭和 一三・二・一七	昭和 一三・二・一七	昭和 一三・二・一七	
藤根 村	北支	北支	北支	北支	北支	北支	北支	北支	北支	北支	北支	北支	北支	北支	北支	北支	北支	北支	北支	北支	北支	北支	北支	北支	北支	北支	北支	北支	北支	
	谷口部隊井上隊菅野隊	谷口部隊井上隊菅野隊	谷口部隊井上隊菅野隊	谷口部隊井上隊菅野隊	谷口部隊井上隊菅野隊	谷口部隊井上隊菅野隊	谷口部隊井上隊菅野隊	谷口部隊井上隊菅野隊	谷口部隊井上隊菅野隊	谷口部隊井上隊菅野隊	谷口部隊井上隊菅野隊	米岡部隊川原田隊	谷口部隊米岡部隊川原田隊	谷口部隊米岡部隊川原田隊	谷口部隊米岡部隊川原田隊	谷口部隊米岡部隊川原田隊	谷口部隊米岡部隊川原田隊	谷口部隊米岡部隊川原田隊	谷口部隊米岡部隊川原田隊	谷口部隊米岡部隊川原田隊	谷口部隊米岡部隊川原田隊	谷口部隊米岡部隊川原田隊	谷口部隊米岡部隊川原田隊	谷口部隊中村部隊川原田隊	谷口部隊中村部隊川原田隊	谷口部隊中村部隊川原田隊	谷口部隊中村部隊川原田隊	谷口部隊中村部隊川原田隊	川原田隊	
はがき	はがき	封書	封書	はがき	封書	はがき	絵はがき	絵はがき	絵はがき	封書	封書	封書	封書	封書	封書	封書	封書	封書	封書	封書	封書	封書	封書	封書	封書	封書	封書	封書	はがき	
検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済	検閲済
村会議員候補者として藤枝忠雄君を推薦したので応援してほし	北支は柿の出盛り。綿は収穫期。各県では優秀なる青年を集め訓練所を開設している。	新聞送付お礼。菊池慶造君負傷を知る。離れて警備に就いている。	新聞送付お礼。菊池慶造君負傷を知る。離れて警備に就いている。	新聞送付お礼。菊池慶造君負傷を知る。離れて警備に就いている。	新聞送付お礼。菊池慶造君負傷を知る。離れて警備に就いている。	新聞送付お礼。菊池慶造君負傷を知る。離れて警備に就いている。	新聞送付お礼。菊池慶造君負傷を知る。離れて警備に就いている。	新聞送付お礼。菊池慶造君負傷を知る。離れて警備に就いている。	新聞送付お礼。菊池慶造君負傷を知る。離れて警備に就いている。	新聞送付お礼。菊池慶造君負傷を知る。離れて警備に就いている。	新聞送付お礼。菊池慶造君負傷を知る。離れて警備に就いている。	新聞送付お礼。菊池慶造君負傷を知る。離れて警備に就いている。	新聞送付お礼。菊池慶造君負傷を知る。離れて警備に就いている。	新聞送付お礼。菊池慶造君負傷を知る。離れて警備に就いている。	新聞送付お礼。菊池慶造君負傷を知る。離れて警備に就いている。	新聞送付お礼。菊池慶造君負傷を知る。離れて警備に就いている。	新聞送付お礼。菊池慶造君負傷を知る。離れて警備に就いている。	新聞送付お礼。菊池慶造君負傷を知る。離れて警備に就いている。	新聞送付お礼。菊池慶造君負傷を知る。離れて警備に就いている。	新聞送付お礼。菊池慶造君負傷を知る。離れて警備に就いている。	新聞送付お礼。菊池慶造君負傷を知る。離れて警備に就いている。	新聞送付お礼。菊池慶造君負傷を知る。離れて警備に就いている。	新聞送付お礼。菊池慶造君負傷を知る。離れて警備に就いている。	新聞送付お礼。菊池慶造君負傷を知る。離れて警備に就いている。	新聞送付お礼。菊池慶造君負傷を知る。離れて警備に就いている。	新聞送付お礼。菊池慶造君負傷を知る。離れて警備に就いている。	新聞送付お礼。菊池慶造君負傷を知る。離れて警備に就いている。	新聞送付お礼。菊池慶造君負傷を知る。離れて警備に就いている。	新聞送付お礼。菊池慶造君負傷を知る。離れて警備に就いている。	新聞送付お礼。菊池慶造君負傷を知る。離れて警備に就いている。